

杉並区教育長 白石高士 殿

2021年6月23日

日本共産党杉並区議団

東京五輪への児童生徒の観戦動員の中止を求める申し入れ

杉並区では、区内小中学校全校2万1743人の児童生徒が参加する五輪観戦が計画されていますが、多くの保護者や教職員から不安、中止を求める声が高まっています。

わが党は、第2回定例会の一般質問及び文教委員会でも提案しましたが、あらためて東京五輪への児童生徒の観戦動員は中止するよう求めるものです。

その第1の理由は、密集する電車での長距離移動、そして競技場での長時間にわたる観戦は、児童生徒を感染の危険にさらすからです。

組織委員会は、五輪競技場に上限1万人の観客を入れることを発表するとともに、学校観戦は1万人の枠外との見解を表明しました。こうした事態は、感染の危険性をさらに増すものです。

第2は、猛暑のなかの長距離移動による児童・生徒の安全と健康への懸念です。質問でも指摘したように、井の頭沿線の小学校の例では2年生、5年生合計293人が、井の頭線駅と国際展示場駅間を乗り継ぎ、有明アリーナへ往復しなければなりません。猛暑のなか、乗り換えを繰り返しながら長距離移動することは、熱中症の危険があり、児童生徒の安全と健康上、きわめて危険な行為です。

第3は、観戦の中止を決断する自治体が広がっていることです。埼玉、千葉、神奈川県自治体とともに、都内でも、目黒区は6月22日、「観戦による新型コロナウイルス感染症や熱中症の不安が拭えないことから、幼児・児童・生徒の安全・安心を第一に考え、中止する」と発表しました。文京区も中止を決定、世田谷区長も「現状では実施は困難」と表明しています。

児童生徒の健康と安全確保は、最優先課題です。東京都医師会の尾崎治夫会長も学校連携観戦プログラムの中止を提言しています。

東京都教育委員会は、組織委員会からの観戦キャンセルに関する通知を区市町村教育委員会に通知しないという不当な対応をとりましたが、いまからでもキャンセルは可能です。

杉並区教育委員会としても、学校連携観戦中止の決断をし、各学校関係者に通知することを求めるものです。

以上